大学生のオンデマンド授業に対するモチベーションに関する分析

成清奈々子[a]　北村花梨[b]　滝口桐矢[c]

要約

新型コロナウイルスの流行により，大学は遠隔授業を導入している．本研究では，その中でもオンデマンド授業に着目する．双方向コミュニケーションの欠如と帰属意識の低下が学生の授業に対するモチベーション低下の要因になっているという仮説を立て，サーベイを行った．結果，モチベーション低下の要因は「友人と一緒に授業をうけることができない」，「大学で授業を受けることができない」の帰属意識低下によるものであることが分かった．以上を踏まえて，私たちは，オンデマンド授業でも帰属意識をもち，孤独を感じさせないようにするため，LINE によるオープンチャット機能の併用を推奨する．またこの研究は，社会人の在宅ワークにおけるモチベーション維持・向上の研究での先駆けとなっている．

JEL 分類番号：I 21，I 23

キーワード：大学遠隔授業，モチベーション，双方向コミュニケーション，帰属意識，マズローの欲求 5 段階

[a] 成清奈々子 同志社大学商学部　tagulabo@gmail.com

[b] 北村花梨 同志社大学商学部

[c] 滝口桐矢 同志社大学商学部

1. イントロダクション

1.1. コロナ禍における大学授業の現状

2020 年 1 月頃から新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し，大学教育にも大きな変化が現れ，新学期を迎えた 4 月から遠隔授業という新たな試みがなされている．文部科学省（2020）によると，83.9%の大学で「遠隔授業のみ」,「遠隔授業と対面の併用」がなされており，多くの大学生が遠隔授業を受けているのが現状である．そして，全国大学生活協同組合連合会（2020）の調査結果によると，WEB 授業で困っていることとして,「先生との対話・質問がしにくい」,「集中力が続かない」,「独りぼっち・友達がいない・孤独感を感じる」が上位に挙げられおり，大学生は，遠隔授業に関して様々な悩みを抱えている．また，南谷（1997）によると，不安や焦燥，孤独はストレス因子であり精神疲労を与えるものであるとされており，授業に対する不安や，友達に会うことができない孤独感などはストレス要因になっている．さらに，Demerouti et al. （2001）では，ストレス度の高低とモチベーションの高低は相反するということが分かっている．よって，ストレス度の高い大学生が多数いるという現状から，大学生は遠隔授業において，授業に対するモチベーションが低下しているということが推測できる．

1.2. 先行研究と仮説

全国大学生活協同組合（2020）によると，コロナ禍ではオンデマンド（動画配信）型による授業形態が最も多く利用されていることから．それに着目して研究を行う．以下，オンデマンド授業と表記し,「録画された動画を配信する授業」と定義する．従来の授業と比較してオンデマンド授業の特徴は，形態の性質から以下の４つである．

１：教授(or 講師)と双方向でコミュニケーションが取れない

２：学生同士でコミュニケーションが取れない

３：１人で授業を受ける/友人と（複数人で）授業を受けることができない

４：自宅で受ける/大学で受けることができない

また，４つの要因は，従来の授業形態と大きく異なる部分であるため，授業に対するモチベーションに変化を与える要因になっていると推測する．よって，仮説１を立てる．

仮説１：上記４つの要因は大学生の授業に対するモチベーションに変化を与えている．

さらに，第１章１節でも述べたように，大学生の授業に対するモチベーションは低下していると推測する．加えて，４つの要因は，モチベーション低下を促す要因であるといえる．

４つの要因を，以下の A 群と B 群に分けて話を進めていく．

[A 群]１．教授と会話できない２．学生同士で会話できない：双方向コミュニケーション

[B 群] ３．　複数人で受けられない　４．大学で受けられない：帰属意識（孤独感）

まず，A 群１に関して，見舘・永井・北澤 ・上野（2008）により，教員とのコミュニケーションは学習意欲を高めるとされ，教授と会話できないオンデマンド授業は，学習意欲を高めることができない．つまり，内発的動機付けがなされず，授業に対するモチベーションは低下しているであろう．次に，A 群２に関して，糟谷（2015）によると，学生同士の議論がモチベーションを維持するとされており，学生同士の議論がないオンデマンド授業では，モチベーション維持が難しいため，A 群１と同様，授業に対するモチベーションは低下しているだろう．次に，B 群の３，４に関して述べる．この２つの要因は，大学生の集団・大学への帰属意識を表すものである．まず，前提としてマズローの欲求５段階説について言及する． 荒木（2016）によると，低次欲求から順に「生理的欲求」「安全の欲求」「帰属の欲求」「承認欲求」「自己実現欲求」の５段階があるとされており，帰属の欲求に関しては「家庭，大学，地域社会で，１人の人間として深く理解され，受け入れられたい」と述べられている．オンデマンド授業は他者との繋がりが希薄化することで，大学コミュニティの中で他者から受け入れられているという実感が湧きにくく，現状，大学生は「帰属の欲求」が欠乏していると推測できる．さらに，荒木（2016）より，やる気はマズローの階層的欲求に根差しているということが統計学的に検証されており，階層欲求の欠乏はモチベーション低下を引き起こす.そのため,「帰属の欲求」が欠乏している大学生は,授業に対するモチベーションが低下しているであろう．以上より，仮説２を立てる．

仮説２:上記４つの要因は,大学生の授業に対するモチベーションを低下させる要因である．

2. サーベイ

本サーベイの目的は，４つの要因が大学生のオンデマンド授業に対するモチベーションに影響を与えているか，またそれらがモチベーション低下の要因になっているかを調査することである．調査期間は 2020 年 9 月 21 日から 2020 年 9 月 24 日 であり，対象者は大学生(私立・国立・公立)で，最終的なサンプル数は，105 となった．被験者は，男性 46 名，女性 57 名，未回答 2 名であった．影響有無と低下の要因であるか否かは，第１章２節で示した４つの要因がモチベーションの変化にどの程度影響したかを質問した．これらの質問は,「１：全く当てはまらない」から「７：非常に当てはまる」までの７件法リッカート・スケールで回答するものであった（付録 A 参照）．また，回答者の「大学への帰属意識」「入学目的の明確さ」「友人関係の良好さ」を問う質問を，中村・松田（2015）を参考に９つ用いた．これらも同様「１:全くそう思わない」から「７：非常にそう思う」までの７件法リッカート・スケールで回答するものであった（付録 A 参照）．

3. 結果

分析手法は，ロジット分析を用いた．まず「モチベーション(1～7)」に対する回答のうち1～3を「モチベーションが低い」，4～7を「モチベーションが高い・変化なし」とし，それぞれ1，0を付与した．表１のような結果が得られた．ここではモチベーショを下げる正の要因として，第１章２節で示したA群１，２とB群３，４を考える．

表１　ロジット分析の結果

方程式中の変数

		B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間 下限	上限
ステップ1[a]	教授とコミュニケーション	.107	.153	.488	1	.485	1.113	.825	1.500
	学生コミュニケーション	.006	.201	.001	1	.977	1.006	.678	1.492
	複数人	.375	.153	6.028	1	.014	1.455	1.079	1.964
	大学で授業を受ける	.335	.127	6.966	1	.008	1.398	1.090	1.793
	定数	-3.384	1.123	9.081	1	.003	.034		

a. ステップ1: 投入された変数 教授とコミュニケーション, 学生コミュニケーション, 複数人, 大学で授業を受ける

上記のモデルから，全ての要因が正である．このことから，これらの４つの要因は，モチベーションの低下に影響を与えていると考えられる．係数値の有意確率をみると「複数人」,「大学で授業を受ける」，定数が5%有意である．次にExp (B)の値を検討すると「複数人」,「大学で授業を受ける」が1を含まず有意であることが分かる．また,「複数人」が他の項目と比べてExp(B)が最大値をとっている．以上のことから,「友人と一緒に授業を受けることができない」ことがモチベーションの低下にもっとも強い影響を与える要素であることが分かる．

4.考察

4.1. 結果に対しての考察・施策

最後に，ロジット分析の各要素について考察する．まず,「授業中に教授とのコミュニケーションをとる機会がない」についてである．木野（2009）によると，いまだに講義系の授業では教員から学生への一方向型授業が大半であることから，教授とのコミュニケーションの機会の喪失は，モチベーション低下の要因になるとは考えにくいと推測される．同様のことが「授業中に学生同士でコミュニケーションがとれない」についても言える．

以上の結果を踏まえ，オンデマンド授業を使用する際の施策について述べる．本実験から，学生は帰属意識が低下するとモチベーションが低下するため，帰属意識を持たせることが必要になる。現に中西・辻・大山・箱崎（2001）より，コミュニケーション機会の損失を軽減することは,グループへの帰属意識を向上させるということが分かっているため,相互コミュニケーションを図るツールとしてSocial Network Serviceである「LINEのオープンチャット機能」を授業に導入することを提案する．時岡・佐藤・児玉・田附・竹中・松波・岩井・木村・鈴木・橋本・岩城・神代・桑原（2017）によると，LINEは相手とつな

がっている感覚がより得やすいとされている．このように，一方通行であるオンデマンド授業の際にも，学生は質問等を即時に呟くことができ，他者とグループ内でコミュニケーションを図ることで，帰属意識が芽生え，モチベーション低下を防ぐことができる．しかし，蓮沼・服部・安達・粟井（2020）によると，LINE は学外システムであるため，グループに参加する承認手続きなどが煩雑であり，大学システムとして思うように導入が進まなかったとされており，そこが懸念点となるため，解決していくべき点である．

4.2 今後の展望

本研究は，大学生のオンデマンド授業に対するモチベーションについて調査するものであったが，社会人も同様の状況にあるのが現状である．そのような中で，社員のモチベーション維持は大きな課題となってくるであろう．國府・西谷・北田・安藤（2019）によると，今日の企業では，社員が業務へ積極的に関与をすることが求められる「創発型責任経営」をしていくべきとされている．我々は，これこそ上記の課題を解決するものだと考えている．在宅ワークで，社員一人ひとりが与えられた業務に勤しむだけでは，モチベーション低下が起こってしまう可能性がある．谷本（2002）より，労働者の満足感とモラールの改善は，彼らが組織の業務改善に積極的に関与することでもたらされるとされており，社員に業務を与えるだけではなく，積極的に業務の改善等に関わらせ，発言の機会を担保することで，社員は自身の会社への帰属意識を感じ，モチベーションの維持がなされるだろう．本研究は，今後，在宅ワークと社員のモチベーション，企業組織に焦点を当てた研究をしていくための先駆けとなっている．

付録 A 本研究で用いられた注意事項と質問項目

[注意事項]
今回のアンケート調査では，動画配信型のオンデマンド授業に限定してお尋ねします．（以下，オンデマンド授業とする）オンデマンド授業とは，録画された動画を配信する授業のことです．ですので，あなたは授業中に発言する機会はありません．また授業は，自宅で一人で受けます．

[質問項目]
1：あなたはコロナ前の対面授業と比較して，オンデマンド授業に対するモチベーションがどう変化しましたか．※変化しなかった人は **4** とお答えください．（コロナ前の授業とは，大人数での対面授業のことです．）
2-1：授業中に，教授とコミュニケーションをとる機会がなかったからですか．
2-2：授業中に，学生同士で授業内容に関してコミュニケーションをとる機会がなかったからですか．
2-3：友達と一緒に(複数人で)授業を受けることができなかったからですか．
2-4：大学で授業を受けることができなかったからですか．
3-1：あなたは，○○大学が好きである（○○はあなたの所属する大学名）
3-2：はっきりとした目的があって大学に入学した
3-3：大学に仲の良い友人がいる
3-4：私は○○大学の学生であることを誇りに思う（○○はあなたの所属する大学名）
3-5：なんとなく大学に進学した
3-6：大学で友人と過ごすことが楽しい
3-7：自分にとって，○○大学は居心地がよくて，落ち着くことができる（○○はあなたの所属する大学名）
3-8：将来の就職（または進学）のことを考えて，現在の大学・学科に入学した
3-9：大学に勉強を教えあう友人がいる

引用文献

荒木義修,2016.日本の高等教育における新たな動向と A.H.マズロー の階層的欲求 ：「やる気」はどこから生まれるか．武蔵野法学 5-6，p.p.1-13.

Demerouti, Bakker, Nachreiner, & Schaufeli, 2001. The Job Demands-Resources Model of Burnout, Journal of Applied Psychology, 86(3), p.p.499-512.
蓮沼直子，服部稔，安達伸生，粟井和夫，2020 年．対面講義ができない状況下での LINE を用いた新入生全員のサポート体制の構築．医学教育 51 (3)，p.p.302-303
糟谷咲子，2015 年．コミュニティ機能の利用による学習効果の評価―満足感とモチベーションの維持について―．岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要 46，p.p109-116.
木野茂，2009 年．教員と学生による双方向型授業 ―多人数講義系授業のパラダイムの転換を求めて―．京都大学高等教育研究第 15 号，p.p1-12
國部克彦，西谷公孝，北田皓嗣，安藤光展，2019 年．創発型責任経営―新しいつながりの経営モデル―．日本経済新聞出版，日本.
文部科学省，2020 年．新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況，p.1.（令和 2 年 7 月）
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00016.html
［文部科学省 20］文部科学省(2020)．遠隔教育システム活用ガイドブック第 1 版,p.7.(平成 31 年 3 月)
https://www.mext.go.jp/content/1404424_1_1.pdf
南谷晴之，1997 年．疲労とストレス．バイオメカニズム学会誌 vol.21，No.2.
見舘好隆・永井正洋・北澤武 ・上野淳，2008 年．大学生の学習意欲，大学生の満足度を規定する要因について．日本教育工学論文誌 32(2)，p.p189-196.
中村真・松田英子，2015 年．大学への帰属意識が大学不適応に及ぼす影響(2)出席率，GPA を用いた分析．江戸川大学紀要，Bulletin of Edogawa University (25)，p.p135-144.
中西泰人，辻貴孝，大山実，箱崎勝也，2001 年，Context Aware Messaging Service:位置情報とスケジュール 情報を用いたコミュニケーションシステムの構築および運用実験.情報処理学会論文誌 42(7)，p.p.1847-1857.
谷本啓，2002 年，人的資源管理生成の背景に関する一考察 -第 2 次世界大戦後のアメリカ連邦政府による政策の影響を中心に-．同志社商学，53(5+6)140-159.
時岡良太，佐藤映，児玉夏枝，田附紘平，竹中悠香，松波美里，岩井有香，木村大樹，鈴木優佳，橋本真友里，岩城晶子，神代末人，桑原知子，2017 年．高校生の LINE でのやりとりに対する認知に現代青年の友人関係特徴が及ぼす影響．パーソナリティ研究第 26 巻第 1 号，p.p.76-88.
全国大学生活協同組合，2020 年．「緊急!大学生・院生向けアンケート大学生」集計結果速報．p.11（令和 2 年 5 月）
https://www.univcoop.or.jp/covid19/enquete/index.html